

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 教育学部、教育学研究科	3
2. 経済学部、経済学研究科	5
3. データサイエンス学部、データサイエンス研究科、データサイエンス教育研究センター	7

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

滋賀大学

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
教育学部、教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
経済学部、経済学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
データサイエンス学部、データサイエンス研究科、データサイエンス教育研究センター	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある

1. 教育学部、教育学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 4)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 教員と大学院生との協働による研究について、第3期中期目標期間中には「日本家政学会関西支部 若手優秀発表賞」、「近畿学校保健学会奨励賞」をはじめ各方面での受賞が見られる。大学院生との協働による論文数の向上が、学会参加・発表と深く関連しており、大学院生（修士課程）の学会発表は第3期中期目標期間中で63件、うち国際学会での発表は6件を数える。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、1件、2件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

2. 経済学部、経済学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 6)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 6)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 「持続可能な地域社会の形成におけるソーシャル・キャピタルの役割」をテーマとした研究は、地域経済、環境、データサイエンスの3分野にまたがる学内横断的共同研究となっており、滋賀大学の特色を活かした研究事業となっている。
- 経済学部附属史料館は、中世惣村に関する一級史料である「菅浦文書」を、昭和26年に長浜市西浅井町菅浦地区から寄託され、長年それらの研究に取り組み、数多くの論文を公表するとともに研究文献データベースを構築し、さらに同文書に関する企画展や講演会を開催してきた。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、2件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

**3. データサイエンス学部、データサイエンス研究科、
データサイエンス教育研究センター**

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 8)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 8)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 滋賀大学 DS 教育研究拠点は、同一キャンパス内で統計科学を中心に多様な専門を有する国内最大規模の教員／研究者集団を保有し、企業等との連携を一体的に行う創発的な研究者コミュニティを形成している。
- 平成 28 年、文部科学省「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」の拠点大学 6 校のうちの一つに選定された。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、4 件、3 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「因果探索と推論の研究」は、学術的及び、社会・経済・文化的に卓越している研究業績である。